

学部 / 看護専門領域 / 看護の基本

科目コード : 120208

フィジカルアセスメント Physical Assessment

担当教員	木森 佳子 多久和典子 田淵 知世				
実務経験					
開講年次	2年次後期	単位数	1	授業形態	講義・演習
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	フィジカルアセスメント 臨床推論				
学習目的・目標	【学習目的】さまざまな健康レベルにある人に適切な看護を行うために、看護の視点から、対象の身体状態を客観的かつ正確に把握することができる。また、身体情報の収集の仕方を習得し、その解釈について理解を深めることができる 【学習目標】 1. 看護診断の方法としてのフィジカルアセスメントができる 2. 頭から爪先 (head to toe)まで、身体をアセスメントできる 3. 検査データを活用することができる				
授業計画・内容					
回	内容				
1	看護におけるフィジカルアセスメントとは 問診、徴候からのアセスメント				
2	フィジカルアセスメントの基本技術（視診、聴診、打診、触診）				
3	系統別フィジカルアセスメント技術 全身のアセスメント（全身の概観、皮膚等） 頭頸部のアセスメント（口腔、甲状腺、リンパ節）				
4	系統別フィジカルアセスメントの技術 胸部のアセスメント（肺、心臓、乳房）				
5	系統別フィジカルアセスメントの技術 腹部のアセスメント（肝臓、脾臓、胃腸他）				
6	系統別フィジカルアセスメントの技術 骨格器系のアセスメント				
7	系統別フィジカルアセスメントの技術 神経系のアセスメント（神経系、運動器系）				
8	フィジカルアセスメントの技術演習①（準備と問診）				
9～12	フィジカルアセスメントの技術演習② （頭部、頸部、胸部、腹部、四肢、腱反射他）				
13	データの読み方と活用				
14	フィジカルアセスメントの技術演習③ （事例検討・臨床推論）				
15	フィジカルアセスメントの看護への活用				
教科書	山内豊明、「フィジカルアセスメント ガイドブック目と手と耳でここまでわかる」医学書院 医療情報科学研究所編、「フィジカルアセスメントがみえる」メディックメディア				
参考図書等	藤崎郁編集、系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ、医学書院 古谷伸之編集、診察と手技がみえる vol. 1 第2版、メディックメディア				
評価指標	授業への参加状況（レポート、演習時の態度等）20%、筆記試験80%により総合評価する				
関連科目	人間機能学、疾病・障害論、基礎看護方法論Ⅰ、他				
教員から学生へのメッセージ	看護の視点を注いで対象の身体の中にどのような変化が生じているのか描く力を高め、対象の置かれた状況にしっかりと知的な関心を注ぐことのできる看護師に成長していこう。				